
《500文字小説》沈黙のあと

十司 紗奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

《500文字小説》沈黙のあと

【Nコード】

N5677V

【作者名】

十司 紗奈

【あらすじ】

ある事件を追っていた警部と、犯人の母親の物語。

「警部、例のホシの身内が来ました。母親だそうです」
喫煙スペースに部下がそう呼びに来た。私は一つ返事をして、煙草を揉み消す。

一週間前、ある強盗事件が発生した。鮮やかな手口だったので、何らかの組織が関与しているのではないかと言われたが、結局はその会社を解雇された元従業員と、その友人による犯行だった。彼らは盗難車で逃走中に接触事故を起こし、そのまま建物に激突。車は大破し、主犯の19歳の少年は即死。共犯の友人は瀕死の重傷。回復を待つて事情聴取をするつもりだったが、昨夜亡くなった。まだ18だった。

暗い霊安室には、すでに少年の母親がいた。
地味で神経質そうな青白い顔をしていた。変わり果てた息子の姿を涙一つ零さず、黙って見下ろしていた。たいがい母親というのは泣き崩れるものなのだが。

「……お気の毒です」
母親はそれには何も答えずに振り返った。その時の印象を私は一生忘れる事はないだろう。

彼女は、これから世間がどんな目で見るのかわかっているのだ。それでも毅然と顔を上げて生きる決意をしているのだろう。憐憫や同情といった感情は断固拒否する強さがあった。そして厳しい口調で一言、言い放った。

「息子は、良い子でした」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5677v/>

《500文字小説》沈黙のあと

2011年10月8日19時20分発行